

6/24
号稿

国保黒字最大2054億円

20年度、赤字一転コロナで受診控え

厚生労働省は二十三日、自営業や無職の人らが加入する国民健康保険の二〇二〇年度の実質的な收支が、全国で計一千五十四億円の黒字だったと発表した。赤字の一九年度から一千九百九十三億円改善した。比較可能な一九九八年度以降、黒字は二回目で、額は最大。新型コロナウイルス禍による受診控えが影響し、支払いが減ったためとみられる。

国保の加入者は高齢者が多く平均年齢が高い。このため医療費がかさみ、赤字経常が続いていた。一八年度に財政運営の主体を市区

町村から都道府県に移管し、国の公費支援を増やした効果で、同年度、初の黒字（計二百十一億円）となつたが、翌一九年度には再び赤字に転じた。

二〇年度は、前年度と比較して加入者が1・5%減の二千六百十九万人、保険料などの収入総額は1・6%減の一三三兆六千五百八十八

公的医療保険制度 病気やけがでかかった医療費の原則1・3割を患者が窓口で負担し、残りを保険料と公費で賄う仕組み。75歳未満の自営業や無職の人、一部の短時間労働者らは国民健康保険に入する。このほか、大企業の社員らが加入する健康保険組合、中小企業の社員のための全国健康保険協会（協会けんぽ）がある。75歳以上は全員、後期高齢者医療制度に入る。

費は1・5%減の二十二万五千五百六十四円だった。

厚労省は七十五歳以上が

保が支払う給付費は前年度から3・9%減少した。

受

診控えが要因と考えられる。給付費を含んだ支出の総額は3・5%減の一三三兆一千一百九十七億円。

加入者が増え、八千一百十九億円の黒字だった。給付

96・64%。最も低いのが東京都の90・26%だった。

費総額は2・7%減の十五兆三千一百六十二億円。

加入する後期高齢者医療制度の一〇年度收支も発表。

加入者が増え、八千一百十九億円の黒字だった。給付

費総額は2・7%減の十五